

# NTS物語

## 番外編2

### 新・天のシルクロード

#### ～凧はいつ空を舞った?～

代表取締役 吉田 隆



中国伝統の「凧」

(参考文献:「ハルプーザ 243号」(発行日・1992年12月15日、編集兼発行人・古曳正夫 / 発行所・ハルプーザ会)掲載、「天のシルクロード 凧の来た道」吉田隆著より)

#### ●ペーパーロード

どんな小さなモノでも、その歴史をひも解けば、そこから悠久の人間の文化史が見えてくる。今は、イランの空、アフガニスタンの空にも、「KITE」が元気よく空を舞う光景をネットで検索することができる。恐らく、モンゴル草原の空にも、アメリカ製「ゲイラ」が勢いよく舞っているはずである。だが、安くて大量に使える「紙」も、丈夫で便利な軽量の「ビニール」もない時代、人々の小さき玩具「凧」は、いつ頃から絹の道、草原の道の上空を舞っていたのだろうか。

4年前の2001年8月、古曳正夫団長率いる「天山花街道の旅」に参加した際、陳舜臣著「紙の道(ペーパーロード)」をポケットに携えつつ旅路につ

いたのも、「凧」と「紙」の縁を思っていたことだった。出版業に携わるものとしては、「紙」の辿った道と、その行く末に思いを馳せる良い機会でもあった。チンギス・ハンやチムールが活躍した10～14世紀頃、「凧」はモンゴル草原の空を舞ったのだろうか?千夜一夜物語の10世紀当時のアラビアの上空を舞っていたのか?少ない情報ゆえ、推測と夢想も交えつつ、凧の来た道を記したい。

中国とカザフ共和国との国境近くのキルギス共和国内に「イシククル湖」がある。その東湖畔のカラコル市の西ウイロウイ村に住む東干(どんがん)族を訪れたのは8月9日だった。東干族は中国では回族と呼ばれる。イスラム

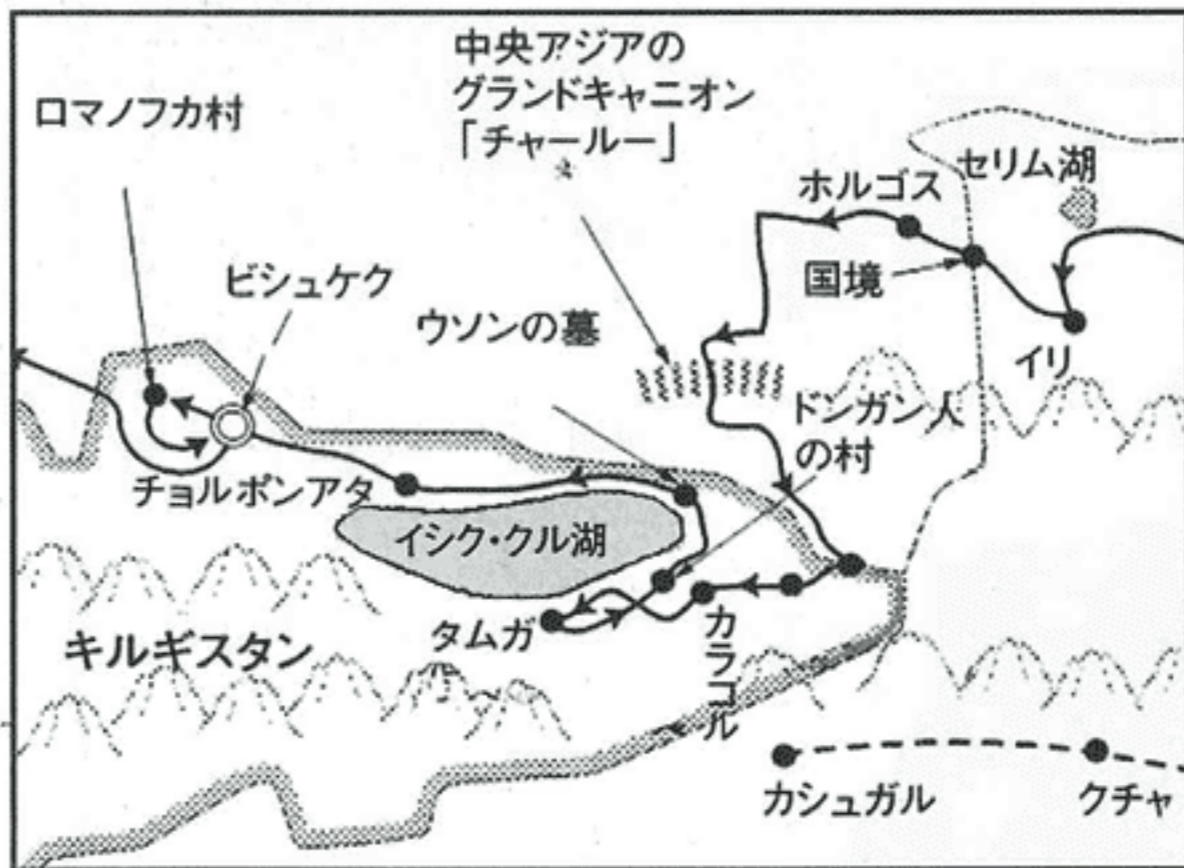
教徒の彼らは、1877～78年頃、清の領土内で反乱を起こし、当時のロシアの許可を得てこの地に住み着いた。イスラム教徒だが、漢語を話し、箸を使い食事をする。

ある民家で東干料理を食した後、ご主人のイヤザ・バンバンザ氏に尋ねた。「凧のことを何と言いますか?」イヤザ氏は、「ジミヤー・フィンズ」と答えた。

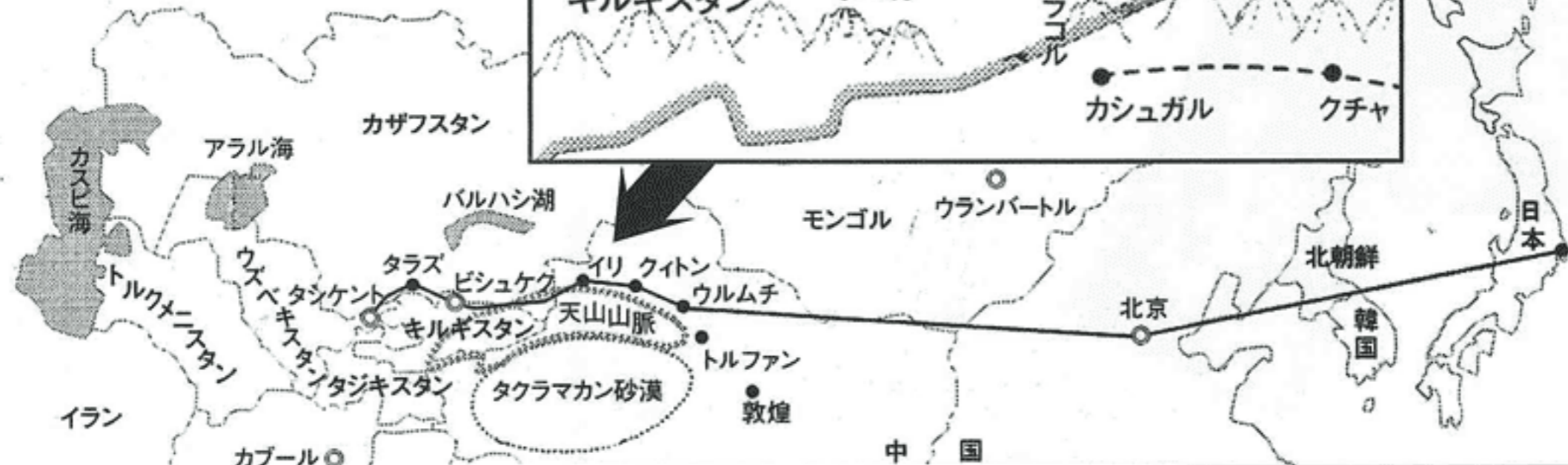
古曳団長によれば、ジミヤーはロシア語で凧を意味するズミヤー、フィンズは漢語で凧を意味する風箏である。イヤザ氏は、鳥の姿をしたこの凧は5月の風の強い季節に上げるとも語った。名称からは不明だが、形態や飛翔法から見て、明らかに中国の一般的な風箏だと思える。



イヤザ・バンバンザさん一家



中国の空をその凧が初めて舞ったのは、紀元前5世紀まで遡る。(以下、次号)



#### ●編集後記

今年も残すところ一ヶ月、クリスマスイルミネーションがきらびやかに町を彩る。街路樹も電球をぶら下げられドレスアップする。「樹は熱くないのかな」なんて思うのは老婆心?日本の省エネ技術は世界でも優秀であり、これ以上の技術革新はなかなか望めないと感じている。クールビズの次はウォームビズ、私達自身が省エネ化しなければならない時代の到来だ。リグニを通して様々なご研究をなされているお話をお伺いして、私達の功罪を考えさせられた。もうすぐ2006年新たな年を迎えるに当たって、身も心もシェイプアップし、スリムな心と体を作らなくてはと思った。皆さん、今年もお疲れ様でした。(あしだ)

#### ●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係  
FAX: 03-3814-9152 E-mail: k-kunimoto@nts-book.co.jp

#### NTSニュース

2005年12月号(通巻82号)  
2005年12月7日発行